

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター年報  
(第2号)

2008年版

'08 ANNUAL REPORTS  
TOTTORI UNIVERSITY AVIAN ZOOONOSIS RESEARCH CENTER



鳥取大学農学部  
附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター  
AVIAN ZOOONOSIS RESEARCH CENTER  
(AZRC)

## 目 次

1. ご挨拶	1
2. 人員構成と各研究部門における研究内容	2
(1) 病態学研究部門	2
(2) 疾病管理学研究部門	2
(3) 分子疫学研究部門	3
3. 研究活動	4
(1) 病態学研究部門	4
原著論文	4
総 説	5
学会発表	5
(2) 疾病管理学研究部門	7
著 書	7
原著論文	7
総 説	8
学会発表	9
(3) 分子疫学研究部門	9
著 書	9
原著論文	10
総 説	10
学会発表	10
4. その他の研究活動	13
(1) 国際共同研究・共同調査	13
5. 広報活動	13
(1) 講演等	13
(2) 新聞雑誌等掲載	16
(3) TV取材出演等	17
6. 社会貢献	17

## 1. ご挨拶

センター長 伊藤 壽啓

平成17年4月、本学に設置された農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センターは今年で3年目を迎え、最終目標である「鳥類から人に感染する感染症への対策の確立」を目指して、スタッフ一同、日夜調査研究に取り組んでおります。特に昨年1月には西日本（宮崎県および岡山県）で再び高病原性鳥インフルエンザが発生し、当研究センターのスタッフは国の防疫指針の見直し、感染経路究明、産業界等への助言や指導など、多方面にわたって大きく貢献致しました。

また文部科学省が鳥インフルエンザなどの新興感染症に対応するために企画した「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」にも参画し、ベトナムを拠点に長崎大学と、また中国を拠点に東京大学とそれぞれ共同研究を実施しています。

さらに11月には当センターと京都産業大学鳥インフルエンザ研究センターとの間で学術交流協定が締結され、ベトナムにおける鳥インフルエンザの侵淫度実態調査、国内野鳥における鳥インフルエンザウイルス保有状況調査および産学連携による抗ウイルス剤開発研究等を両センターの職員が共同で推進することとなりました。

今年度は専任部門である病態学研究部門の小野悦郎教授が九州大学医学部に、新矢恭子准教授が神戸大学医学部にそれぞれ異動しましたが、後任として鳥類ウイルス学の専門家である山口剛士教授を、そして兼担部門である疾病制御学研究部門には尾崎弘一助教をそれぞれ迎え、新体制で目標達成に向け活動しております。

今後とも国内唯一の鳥由来感染症専門の研究センターとして、スタッフ一同益々努力していく所存ですので、引き続き、皆様のご支援を賜りたく、切にお願い申し上げます。

## 2. 人員構成と各研究部門における研究内容

### (1) 病態学研究部門

- ・野鳥の生息状況・飛翔路調査
- ・野鳥の病原体保有状況調査
- ・異種動物間伝播機序の研究

**教授 山口 剛士**（平成19年6月1日着任～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」（海外研究拠点を活用した新規研究課題）における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に参加している。人獣共通感染症の伝播と拡散における野生鳥類の果たす役割について研究を行っている。

**特任教授 小野 悦郎**（平成17年4月～平成19年3月専任教授、平成19年4月～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」（海外研究拠点を活用した新規研究課題）における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に業務主任者として参加している。また、鳥インフルエンザ抵抗性動物の開発研究を行っている。

**助教 笛吹 達史**（平成20年4月着任～現在）

インフルエンザウイルスについて、ウイルス感染動物における免疫誘導機構、鳥種・動物種による病原性の違いに関わる宿主要因をテーマに研究を行っている。鳥類から哺乳類への伝播機序の解明を目指す。また、ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測に参加。

### (2) 疾病管理学研究部門

- ・病原性獲得変異の研究
- ・病原微生物の感受性研究
- ・新規抗微生物活性物質の研究

**教授 村瀬 敏之**（平成17年4月～平成18年3月助教授、平成18年4月～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」（海外研究拠点を活用した新規研究課題）における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に

分担研究者として参加している。また、鶏卵鶏肉を汚染するサルモネラの生態、病原性および薬剤感受性に関する調査研究を行っている。

**特任教授 大槻 公一**（平成17年4月～平成18年3月教授、センター長、平成18年4月～現在）

「新興・再興感染症に関する海外研究拠点形成プログラム」(文部科学省)により長崎大学熱帯医学研究所がベトナムに形成した拠点において、研究協力者として、同国の野鳥の鳥インフルエンザウイルス汚染状況を調査している。また、抗ウイルス性を持つ新素材「加工ドロマイト」の開発研究を行っている。

**助教 尾崎 弘一**（平成19年7月着任～現在）

高病原性鳥インフルエンザウイルスに対するワクチン開発を行っている。また、ウイルスタンパクに対する抗体を応用して CNT バイオセンサーの開発、広範囲なウイルス増殖抑制活性を持つ抗体の探索とその応用、分子レベルでの抑制メカニズムを追っている。

### (3)分子疫学研究部門

- ・分子疫学情報のデータベース化
- ・遺伝情報交換ネットワークの構築

**教授 伊藤 壽啓**（平成17年4月～現在、平成18年4月～現在、センター長）

鳥由来人獣共通感染症としての鳥インフルエンザを主な研究対象として、人の新型インフルエンザウイルス出現予測のための宿主域制限因子の解明や、国内に飛来する渡り鳥を中心とした野鳥のウイルス保有状況調査、野生水禽由来インフルエンザウイルスの鶏に対する病原性獲得機構の解明等の研究を実施している。

**准教授 伊藤 啓史**（平成17年4月～現在）

鳥インフルエンザウイルスおよびニューカッスル病ウイルスの宿主域、病原性に関する研究を行っている。また、各種機関や企業との連携、共同研究により野鳥の鳥インフルエンザウイルス保有状況の調査や抗鳥インフルエンザウイルス素材、製品に関する研究を行っている。

（平成21年3月31日現在）

### 3. 研究活動

#### (1) 病態学研究部門

##### 原著論文

- 1) Kasanga CJ, Yamaguchi T, Wambura PN, Munang'andu HM, Ohya K, and Fukushi H: Detection of infectious bursal disease virus (IBDV) genome in free-living pigeon and guinea fowl in Africa suggests involvement of wild birds in the epidemiology of IBDV. *Virus Genes*, 36, 521-529, 2008.
- 2) Terasaki K, Hirayama H, Kasanga CJ, Maw MT, Ohya K, Yamaguchi T, and Fukushi H: Chicken B lymphoma DT40 cells as a useful tool for in vitro analysis of pathogenic infectious bursal disease virus. *J Vet Med Sci*, 70, 407-410, 2008.
- 3) Yamada S, Matsumura T, Tsujimura K, Yamaguchi T, Ohya K, and Fukushi H: Comparison of the growth kinetics of neuropathogenic and nonneuropathogenic equid herpesvirus type 1 (EHV-1) strains in cultured murine neuronal cells and the relevance of the D/N(752) coding change in DNA polymerase gene (ORF30). *J Vet Med Sci*, 70, 505-511, 2008.
- 4) Ghanem YM, Fukushi H, Ibrahim ES, Ohya K, Yamaguchi T, and Kennedy M: Molecular phylogeny of equine herpesvirus 1 isolates from onager, zebra and Thomson's gazelle. *Arch Virol*, 153, 2297-2302, 2008.
- 5) Ohya K, Takahara Y, Kuroda E, Koyasu S, Hagiwara S, Sakamoto M, Hisaka M, Morizane K, Ishiguro S, Yamaguchi T, and Fukushi H: Chlamydophila felis CF0218 is a novel TMH family protein with potential as a diagnostic antigen for diagnosis of C. felis infection. *Clin Vaccine Immunol*, 15, 1606-1615, 2008.
- 6) Yoshida K, Tomioka Y, Kase S, Morimatsu M, Shinya K, Ohno S, Amagai K, Kuramochi M, Watanabe Y, Kouda S, and Ono E: Microphthalmia and lack of vitreous body in transgenic mice expressing the first immunoglobulin-like domain of nectin-1. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol*, 246(4), 543-549, 2008.

7) Tomioka Y, Miyazaki T, Taharaguchi S, Yoshino S, Morimatsu M, Uede T, Ono E, and Watanabe M: Cerebellar pathology in transgenic mice expressing the pseudorabies virus immediate-early protein IE180. *Eur J Neurosci*, 27(8), 2115-2132, 2008.

## 総 説

1) 杉浦尚子, 大屋賢司, 山口剛士, 福士秀人: 新たなオウム病診断用抗原の探索. *獣医畜新報*, 61, 202-203, 2008 年.

2) 柳井徳磨, 村井厚子, 山口剛士, 岡野司, 福士秀人, 酒井洋樹, 柵木利昭, 清水博文, 村田浩一: 野外および飼育下のニホンライチョウにおける背景病変. *獣医畜新報*, 61, 379-386, 2008 年.

3) 山口剛士, 福士秀人: ライチョウの細菌およびウイルス感染症. *獣医畜新報*, 61, 367-371, 2008 年.

4) 山口剛士: 網羅的遺伝子検索の感染症迅速診断への応用 緒言. *獣医畜新報*, 62, 815, 2009 年.

## 学会発表

1) 橋本真紀子, 佐藤雪太, 江尻寛子, 大森澄枝, 山口剛士, 津田良夫, 湯川眞嘉, 村田浩一: 国内の蚊における鳥ポックスウイルス DNA 保有状況. 第 145 会日本獣医学会学会学術集会, 2008 年 3 月, 神奈川.

2) 富岡幸子, 宮崎太輔, 田原口智士, 森松正美, 渡辺雅彦, 小野悦郎: 仮性狂犬病ウイルス前初期蛋白 IE180 発現マウスにおける小脳形成不全の病理組織学的解析. 第 145 回日本獣医学会, 2008 年 3 月, 相模原市.

3) Horvath S, Tomioka Y, Toldi J, Farkas T, Janka Z, Morimatsu M, Ozaki K, Yamamoto S, Kuboki N, Wada T, and Ono E: Over-expression of the soluble form of nectin-1 causes marked behavioral and neurophysiological changes in a dose dependent manner in mice. ENS 2008 Satellite Symposium, Jul.2008, Villars, Switzerland.

- 4) 橋本直幸, 岡野司, 浅野玄, 大屋賢司, 鈴木正嗣, 石黒直隆, 山口剛士, 福士秀人: 救護野生動物間における薬剤耐性菌の動態. 第 146 回日本獣医学会学術集会, 2008 年 9 月, 宮崎市.
- 5) 植田美弥, 松本令以, 松井桐人, 近江谷知子, 山口剛士: フンボルトペンギン (*Spheniscus humboldti*) に認められた鳥ポックスウイルス感染症. 日本野生動物医学会第 14 回大会, 2008 年 9 月, 神戸市.
- 6) 福井大祐, 中村眞樹子, 竹中万紀子, 村上麻美, 柳井徳磨, 山口剛士, 福士秀人: 札幌圏のカラス類で大量発症した鳥ポックスウイルス感染症. 身近な野鳥の保全医学研究. 日本野生動物医学会第 14 回大会, 2008 年 9 月, 神戸市.
- 7) 山口剛士, 中森純也, 島田章則, 笛吹達史, 伊藤啓史, 尾崎弘一, 伊藤壽啓: オオジュリン (*Emberiza schoeniclus*) に認められた Avipoxvirus 感染症. 日本野生動物医学会第 14 回大会, 2008 年 9 月, 神戸市.
- 8) Yamaguchi T, Usui T, Ito H, and Ito T: Molecular characterization of H5N1 highly pathogenic avian influenza viruses isolated from wild birds in Japan. Presented at the University International Strategy Headquarters Strengthening Project, Sep. 2008, Harbin, China.
- 9) Ono E, Tomioka Y, Ozaki K, Yamamoto S, Morimatsu M, and Cherel P: Comparison and evaluation of the antiviral potentials among different soluble forms of nectin-1 to herpesvirus infection. 2nd World Conference On Magic Bullets, Oct. 2008, Nurenberg, Germany.
- 10) Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong SL, Ono E, Tsunekuni R, Ito H, Ozaki H, Yamaguchi T, Ito T, Otsuki K, and Murase T: Isolation of Avian Influenza Viruses from Poultry in Northern Vietnam in the Period Between 2006 and 2008. Forum of the network of research centers on infectious disease, Oct. 2008, Hanoi, Vietnam.
- 11) Yamaguchi T, Ohya K, and Fukushi H: Molecular epidemiological studies on infectious bursal disease virus in Japan. The 5th International joint symposium between Japan and Korea, the recent status and perspectives of food system, agricultural environment and biology in 2008, Nov. 2008, Dejeon, Korea.



12) Usui T, Yamaguchi T, Ito H, Ozaki H, Murase T, and Ito T: Characterization of H5N1 highly pathogenic avian influenza viruses isolated from whooper swans (*Cygnus Cygnus*) in northern part of Japan in 2008. 第5回日韓合同シンポジウム, 2008年11月, 太田市, 韓国.

## (2) 疾病管理学研究部門

### 著 書

- 1) 大槻公一: 新型インフルエンザから家族を守る 18 の方法. 青春出版社, 東京, 2008年.
- 2) 大槻公一: 新型インフルエンザ～ あなたのパンデミック対策は間違っている. (岩井一夫編, 大槻公一監修), 近代消防社, 東京, 2008年.

### 原著論文

- 1) Itoh Y, Ozaki H, Tsuchiya H, Okamoto K, Torii R, Sakoda Y, Kawaoka Y, Ogasawara K, and Kida H: A vaccine prepared from a non-pathogenic H5N1 avian influenza virus strain confers protective immunity against highly pathogenic avian influenza virus infection in cynomolgus macaques. *Vaccine*, 26(4), 562-572, 2008.
- 2) Matsumoto N, Taniwaki T, Kinuta M, and Murase T: Isolation of *Campylobacter jejuni* and coliform bacilli from bile and liver obtained from slaughter cattle in western Japan. *J Food Prot*, 71, 1228-1231, 2008.
- 3) Sawai T, Itoh Y, Ozaki H, Isoda N, Okamoto K, Kashima Y, Kawaoka Y, Takeuchi Y, Kida H, and Ogasawara K: Induction of cytotoxic T lymphocyte and antibody responses against highly pathogenic avian influenza virus infection in mice inoculation of apathogenic H5N1 influenza virus particles inactivated with formalin. *Immunology*, 124(2), 155-165, 2008.
- 4) Soda K, Ozaki H, Sakoda Y, Isoda N, Haraguchi Y, Sakabe S, Kuboki N, Kishida N, Takada A, and Kida H: Antigenic and genetic analysis of H5 influenza viruses isolated from water birds for the purpose of vaccine use. *Arch Virol*, 153(11), 2041-2048, 2008.

5) Manzoor R, Sakoda Y, Nomura N, Tsuda Y, Ozaki H, Okamatsu M, and Kida H: PB2 protein of a highly pathogenic avian influenza virus strain A/chicken/Yamaguchi/7/2004 (H5N1) determines its replication potential in pigs. *J Virol*, 83(4), 1572-1578, 2009.

6) Yoshida R, Igarashi M, Ozaki H, Kishida N, Tomabechi D, Kida H, Ito K, and Takada A: Cross-protective potential of a novel monoclonal antibody directed against antigenic site B of the hemagglutinin of influenza A viruses. *PLoS Pathog*, 5(3), e1000350, 2009.

7) 高桑弘樹, 常國良太, 大槻公一: H1 亜型インフルエンザウイルスに対する消毒薬の効果. *家畜衛生学雑誌*, 35(2), 57-58, 2009 年.

8) 高桑弘樹, 常國良太, 藪田淑予, 中村保紀, 大上猛夫, 大槻公一: 3 種類の微香くん液の抗鳥インフルエンザウイルス効果. *防菌防黴*, 37, 879-882, 2009 年.

## 総 説

1) 大槻公一: 鳥インフルエンザとは. *成人病と生活習慣病*, 38, 1244-1250, 2008 年.

2) 大槻公一: 人獣共通感染症としての鳥インフルエンザ. *鳥取医誌*, 34, 3-6, 2008 年.

3) 大槻公一, 高桑弘樹, 常國良太, 中井雅晶: 最も危険な外来性の鳥由来人獣共通感染症 — 鳥インフルエンザ —. *京産大先端科学技術研究所報*, 7, 161-176, 2008 年.

4) 大槻公一: 鳥インフルエンザの現段階—鳥からヒト, ヒトからヒトへの伝播はどこまで進んでいるか. *保団連*, 982, 25-30, 2008 年.

5) 大槻公一: 4 月に起きた北海道・北東北地域の鳥インフルエンザ. *鶏の研究*, 83, 18-21, 2008 年.

6) 大槻公一: 鳥インフルエンザ—この冬に備えて. *鶏の研究*, 83(11), 22-25, 2008 年.

7) 大槻公一: 鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ 1. 鳥インフルエンザについて. *近代消防*, 574, 69-71, 2008 年.

8) 大槻公一: 鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ 2. 鳥インフルエンザについて. *近代消防*, 575, 90-91, 2008 年.

### 学会発表

1) Otsuki K, Ono K, Takakuwa H, Murase T, Ito T, Le QM, Phuong SL, Morita K, and Yamashiro T: Surveillance of Avian Influenza Virus in Vietnam. Asian Research Forum on Emerging and Reemerging Infections - 2008, Jan. 2008, Osaka, Japan.

2) Otsuki K, Ono E, Takakuwa H, Murase T, Ito T, Itoh H, Le QM, Phuong SL, Morita K, and Yamashiro T: Epizootiology of Avian Influenza. The International Symposium on Environmental Change, Pathogens, and Human Linkages, Research Institute for Humanity and Nature, Jun. 2008, Kyoto, Japan.

3) 村瀬敏之, 尾崎弘一, 江寄英剛, 平山紀夫: 生産農場のブロイラーの各発育段階において分離された大腸菌の薬剤感受性及びパルスフィールドゲル電気泳動 (PFGE) パターン. 第 146 回日本獣医学会, 2008 年 9 月, 宮崎市.

4) 尾崎弘一, 江寄英剛, 平山紀夫, 村瀬敏之: 生産農場のブロイラーから分離された基質拡張型  $\beta$ -ラクタマーゼ (ESBL) 産生大腸菌の細菌学的性状. 第 146 回日本獣医学会, 2008 年 9 月, 宮崎市.

5) Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong SL, Ono E, Tsunekuni R, Ito H, Ozaki H, Yamaguchi T, Ito T, Otsuki K, and Murase T: Isolation of avian influenza viruses from poultry in northern Vietnam in the period between 2006 and 2008. Forum of the network of research centers on infectious diseases, Oct. 2008, Hanoi, Vietnam.

### (3) 分子疫学研究部門

#### 著 書

1) 伊藤壽啓: 水鳥とインフルエンザの関係—その特性は. *インフルエンザ研究最前線 Q&A*, pp33-35, 鈴木宏他, 初版, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2009 年.

## 原著論文

- 1) Ito T: Outbreaks of highly pathogenic avian influenza in Japan. *Global Environ Res*, 12(1), 15-20, 2008.
- 2) Motoike K, Hirano S, Yamana H, Onda T, Maeda T, Ito T, and Hayakawa M: Antiviral Activities of Heated Dolomite Powder. *Biocontrol Sci*, 13 (4), 131-138, 2008.
- 3) 指原信廣, 長谷川峯夫, 井土俊郎, 伊藤啓史, 伊藤壽啓: ニューカッスル病ウイルス(NDV)の卵黄中加熱処理による不活化とマヨネーズにおける生残性. *日食微生物会誌*, 25, 32-35, 2008年.

## 総 説

- 1) 伊藤壽啓: 連載《インフルエンザ講座》宮崎県及び岡山県の養鶏場で発生した高病原性鳥インフルエンザの感染ルート究明. *インフルエンザ*, 9(1), 64-67, 2008年.
- 2) 伊藤壽啓: 10年前の鳥インフルエンザ・イン・ホンコン. *インフルエンザ*, 9(1), 9-10, 2008年.

## 学会発表

- 1) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザと新型インフルエンザ. 鳥取県立中央病院鳥インフルエンザの基礎知識を学ぶ研修会, 2008年4月, 鳥取市.
- 2) Ito T: Isolation of a highly pathogenic avian influenza virus strain from a feral hawk eagle. Taiwan and Japan Avian Influenza Prevention and Control Conferences in 2008, 2008年5月, 台北郡淡水市, 中華民国.
- 3) 伊藤壽啓: 鳥インフルエンザに備えてわれわれが今できること. 千葉科学大学公開シンポジウム, 2008年6月, 銚子市.
- 4) 伊藤壽啓: 鳥取大学の世界的研究～鳥インフルエンザの世界的蔓延防止に向けて. 2008年度地域学入門第3部「地域づくり」の諸実践, 2008年7月, 鳥取市.
- 5) Yamaguchi T, Usui T, Ito H, and Ito T: Molecular characterization of highly pathogenic avian influenza viruses isolated from wild birds in Japan.

中国東北農業大学校講演会, 2008 年 9 月, ハルビン, 韓国.

6) 山口剛士, 中森純也, 島田章則, 笛吹達史, 伊藤啓史, 伊藤壽啓: オオジュリン (*Emberiza schoeniclus*) に認められた Avipoxvirus 感染症. 第 14 回日本野生動物医学会大会, 2008 年 9 月, 神戸市.

7) 伊藤壽啓: 鳥インフルエンザについて. 環境省高病原性鳥インフルエンザ発生に係る対応技術研修, 2008 年 9 月, 東京都千代田区.

8) Ito T: Pathogenicity of influenza virus. Regional Workshop for Avian Influenza Control for Asian Countries, 2008 年 9 月, 札幌市.

9) 伊藤壽啓: 鳥インフルエンザと野鳥について. 平成 20 年度青森県高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会, 2008 年 10 月, 八戸市.

10) 平井伸治, 大槻公一, 伊藤壽啓: 鳥取からの発信鳥インフルエンザの撲滅を. 鼎談「鳥インフルエンザ対策と危機管理体制」, 2008 年 10 月, 米子市.

11) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザと野鳥との関わり. 平成 20 年度茨城県防疫演習特別講演, 2008 年 10 月, 小美玉市.

12) 伊藤壽啓: 野鳥の高病原性鳥インフルエンザに関する情報とサーベイランス体制. 日本採卵養鶏産業研究会第 6 回研究セミナー, 2008 年 11 月, 二本松市.

13) Otsuki K, Ono E, Takakuwa H, Murase T, Ito T, Le QM, Phuong SL, Morita K, and Yamashiro T: Surveillance of Avian Influenza Virus in Vietnam. Proceedings of the Asian Research Forum on Emerging and Reemerging Infections, 28th-29th, Jan. 2008, Osaka, Japan.

14) Otsuki K, Ono E, Takakuwa H, Murase T, Ito T, Ito H, Le QM, Phuong SL, Morita K, and Yamashiro T: Epizootiology of Avian Influenza. Proceedings of the International Symposium on Environmental Change, Pathogens, and Human Linkages, Research Institute for Humanity and Nature, 11th-14th, Jun. 2008, Kyoto, Japan

15) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザと野鳥との関わり. 第 56 回日本ウイルス学会学術集会シンポジウム「臨床から基礎へ, 基礎から臨床へ-鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ-」, 2008 年 10 月, 岡山市.

16) akakuwa H, Yamashiro T, Le MQ, Phuong SL, Ono E, Tsunekuni R, Usui T, Ozaki H, Ito H, Yamaguchi T, Ito T, Otsuki K, and Murase T: Infection of H5N1 avian influenza viruses in healthy ducks on farms in northern Vietnam. The Forum of the Network of Research Centers on Infectious Diseases, Oct. 2008, Hanoi, Vietnam.

17) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザの国内発生と新型ウイルスの出現. 平成 20 年度日本太陽エネルギー学会・日本風力エネルギー協会合同研究発表会, 2008 年 11 月, 鳥取市.

18) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザと野鳥との関わり. 新潟県畜産協会 HPAI 講習会, 2008 年 11 月, 新潟市.

19) 伊藤壽啓: 鳥インフルエンザは大丈夫? ~初歩から養鶏のプロまで, 自分自身を守るために. 平成 20 年度鳥取県家畜畜産物衛生指導協会研修会, 2008 年 11 月, 鳥取県琴浦町.

20) Usui T, Yamaguchi T, Ito H, Ozaki H, Murase T, and Ito T: Characterization oh H5N1 highly pathogenic avian influenza viruses isolated from whooper swans (Cygnus Cygnus) in northern part of Japan in 2008. The 5th International Join Symposium between Japan and Korea, Nov. 2008.11, Daejeon, Korea.

21) 伊藤壽啓: 日本における野鳥での最近の HPAI 発生ーウイルスの遺伝子分析の結果ー. OIE 農林水産省共催「アジアにおける鳥インフルエンザのコントロールに関するシンポジウム」, 2008 年 11 月, 東京都千代田区.

22) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザと野鳥との関わり. 平成 20 年度千葉県「高病原性鳥インフルエンザ」発生防止のための研修会, 2008 年 11 月, 千葉市.

23) 伊藤壽啓: 野鳥における高病原性鳥インフルエンザウイルスの状況について. 平成 20 年度岡山県高病原性鳥インフルエンザ防疫対策研修会, 2008 年 11 月, 岡山市.

24) 伊藤壽啓: 野鳥における高病原性鳥インフルエンザ対策. 平成 20 年度自然保護官等研修 II および自然保護官等研修特設(野生生物), 2009 年 1 月, 所沢市.

25) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザ～野鳥から家禽へ. 岩手県獣医師会産公市民公開講座, 2009 年 1 月, 盛岡市.

26) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザ～家禽, 人, 野鳥との関わり. 平成 20 年度動物検疫に関する連絡会議, 2009 年 2 月, 門司市.

## 4. その他の研究活動

### (1) 国際共同研究・共同調査

- 1) 科学技術振興費「振興・再興感染症研究拠点形成プログラム「中国との連携を基軸とした振興・再興感染症の研究」(中華人民共和国ハルピン獣医学研究所)」平成 16 年～現在
- 2) 科学技術振興費「振興・再興感染症研究拠点形成プログラム」「ベトナムにおける高病原性鳥インフルエンザ浸淫度調査と出現予測」(ベトナム社会主義共和国国立衛生疫学研究所), 平成 16 年～現在
- 3) 学術交流協定締結(大韓民国国立動物検疫科学院)平成 17 年 5 月～現在
- 4) 学術交流協定締結(大韓民国建国大学)平成 17 年 5 月～現在

## 5. 広報活動

### (1) 講演等

- 1) 大槻公一: 鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ. 鶏病研究会三重県支部技術研修会, 2008 年 7 月 9 日, 津市.
- 2) 大槻公一: 高病原性鳥インフルエンザ等について. 平成 20 年度京都府 人と動物共通感染症予防対策連絡調整会議, 2008 年 7 月 22 日, 京都市.
- 3) 大槻公一: 新素材ドロマイトの有効性. ISS 産業科学システムズ主催抗ウイルス・抗菌素材のメカニズムと商品開発に関するセミナー, 2008 年 8 月 19 日, 東京都千代田区.
- 4) 大槻公一: 鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ. 愛知万博記念災害・救急医療研究会主催第 3 回国際災害・救急医療シンポジウム, 2008 年 8 月 28 日, 名古屋市.

- 5) 大槻公一：鳥インフルエンザについて。酒田市鳥インフルエンザにかかる最新情報と渡り鳥についての勉強会，2008年9月3日，酒田市。
- 6) 大槻公一：鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ。アルボース新型インフルエンザセミナー，2008年9月4日，東京都中央区。
- 7) 大槻公一：高病原性鳥インフルエンザについて。広域防疫対策センターに係る専門家チーム会議，2008年9月9日，京都市。
- 8) 大槻公一：鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ。アルボース新型インフルエンザセミナー，2008年9月11日，大阪市。
- 9) 大槻公一：鳥インフルエンザについて。千葉科学大学 The International Crisis Management Symposium on CBRN (NBC) and Emerging Infectious Diseases, 2008年9月13日～9月14日，銚子市。
- 10) 大槻公一：鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ。アルボース新型インフルエンザセミナー，2008年10月9日，名古屋市。
- 11) 大槻公一：鳥インフルエンザについて。京都府第3回きょうと食の安心・安全意見交換会，2008年10月15日，京都市。
- 12) 大槻公一：高病原性鳥インフルエンザの最近の知見について。平成20年度京都府高病原性鳥インフルエンザ防疫演習，2008年10月29日，亀岡市。
- 13) 大槻公一：鳥インフルエンザの危機管理について。佐世保市食肉衛生検査所，2008年10月31日，佐世保市。
- 14) 大槻公一：鳥インフルエンザの現状と課題について。長野県農政部主催高病原性鳥インフルエンザ講習会，2008年11月7日，松本市。
- 15) 大槻公一：鳥インフルエンザってどういう病気。知って得 とり・たまごの集い，2008年11月8日，京都市。
- 16) 大槻公一：新型インフルエンザに関する最新情報。エルクコーポレーション第20回エルク会総会，2008年11月13日，東京都港区。



- 17) 大槻公一: グローバル化と鳥インフルエンザ問題. 日本環境動物昆虫学会創立20周年記念大会, 2008年11月16日, 京都市.
- 18) 大槻公一: 鳥インフルエンザの防疫対策等. 京都市会議員研修, 2008年11月18日, 京都市.
- 19) 大槻公一: 鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ. 薬剤師会京都府支部学術講演会, 2008年11月27日, 京都市.
- 20) 大槻公一: 鳥インフルエンザの最近の知見について. 京都府山城家畜保健衛生所高病原性鳥インフルエンザに関する情報交換会, 2008年11月27日, 宇治市.
- 21) 大槻公一: めぐる, 感染症そして研究の今, 科学技術振興調整費連携施策群「科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進 BSL-4 施設を必要とする新興感染症対策」サブテーマ 4「BSL-4 施設に関するリスクコミュニケーションに関する研究」シンポジウム, 2008年12月21日, 長崎市.
- 22) 山口剛士: 伝染性ファブリキウス嚢病ウイルスの分子疫学. 鶏病研究会鳥取支部技術研修会, 2008年, 鳥取市.
- 23) 山口剛士: 国内野鳥死亡例からの高病原性鳥インフルエンザウイルスの分離とその性状. 鶏病研究会東海北陸支部技術研修会, 2008年, 岐阜市.
- 24) 大槻公一: 鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ. 鳥取市中央保健センター新型インフルエンザ講演会, 2009年1月9日, 鳥取市.
- 25) 大槻公一: 高病原性鳥インフルエンザの世界的動向. 第3回大気バイオエアロゾルシンポジウム, 2009年1月11日, 仙台市.
- 26) 大槻公一: 鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ. 京都商工会議所企業のための新型インフルエンザ対策セミナー, 2009年1月15日, 京都市.
- 27) 大槻公一: 新型インフルエンザ対策のための基本的知識. 鳥取市教育委員会鳥取市小・中学校養護教諭研修会, 2009年1月23日, 鳥取市.
- 28) 大槻公一: 高病原性鳥インフルエンザの現状と発生防止の留意点. 大阪府畜産会養鶏防疫研修会, 2009年1月30日, 大阪市.

29) 大槻公一: 鳥インフルエンザと食の安全性. 日本食品工業倶楽部大阪部会, 2009年2月例会, 2009年2月17日, 大阪市.

30) 大槻公一: インフルエンザ基礎知識, ドロマイトなどの新素材を用いた新型インフルエンザ対策. ISS 産業科学システムズ新型インフルエンザ対策最前線セミナー, 2009年2月19日, 東京都千代田区.

31) 大槻公一: 感染症や食中毒から身を守るために私たちができることは. 喜多薬品工業(株)「新型インフルエンザなどの感染症や食中毒から身を守る衛生習慣の必要性」セミナー, 2009年2月26日, 大阪市.

32) 大槻公一: 愛知県で発生した高病原性鳥インフルエンザに関して～H7亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスについて～. 京都府広域防疫対策センターに係る専門家チーム会議, 2009年3月11日, 京都市.

33) 大槻公一: 鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ. 京都府薬剤師会平成20年度通常代議員会・臨時総会, 2009年3月15日, 京都市.

## (2)新聞雑誌等掲載

- H20. 4. 4 鳥インフルエンザウイルス ー感染繰り返して強毒にー  
山陰中央, 毎日, 読売, 朝日
- H20. 4. 4 鳥インフルウイルス 感染重ねると強毒化  
鳥取大研究グループ確認 「弱毒」遺伝子の変異  
(鳥取大学伊藤壽啓教授) 日本海
- H20. 6. 4 抗菌・抗ウイルス消臭剤開発 鳥取大と化学メーカー  
鳥インフルエンザにも効果 読売
- H20. 7. 2 道内の鳥インフルエンザウイルス～ウラジオもほぼ同一  
コメント取材協力 (伊藤壽啓) 北海道
- H20.10.27 「日ごろから備えを」鳥インフル対策を考える 米子でシンポ  
インフルエンザ「予防と封じ込め大切」 知事らが対策シンポ  
日本海, 山陰中央
- H21. 1.10 マスクや手洗い 感染予防に有効 薬に頼らない工夫を  
大槻公一鳥取大学特任教授「新型インフル」講演 日本海

H21. 2.24 鳥大に防災・危機管理研 地震,新型インフル研究成果生かせ

読売

### (3)TV取材出演等

H20. 4. 3 鳥インフルエンザ～繰り返し感染でウイルス強毒に  
取材インタビュー (伊藤壽啓) NHK全国

H20. 5.30 鳥インフルエンザ～野付半島ハクチョウから鳥インフルエンザ  
ウイルス検出～中国などと同じ系統  
会見 (専門家会合座長 伊藤壽啓) NHK地方

H21. 2.21 とっとりWHY?  
Vol.243 必ず起こる新型インフルエンザに備えろ!  
研究室訪問取材とインタビュー取材対応 (伊藤壽啓) 日本海

## 6. 社会貢献

伊藤壽啓: 平成 9 年度～現在 鳥取県公衆衛生協会理事

伊藤壽啓: 平成 19 年度～現在 農林水産省食料・農業・農村政策審議会家畜衛生  
部会家きん疾病小委員会委員

伊藤壽啓: 平成 20 年度 鳥取県防災危機管理委員会委員

伊藤壽啓: 平成 20 年度 環境省高病原性鳥インフルエンザ感染経路等調査ワーキ  
ンググループ座長

伊藤壽啓: 平成 20 年度 環境省第3回鳥インフルエンザ等野鳥に係る専門家グル  
ープ会合メンバー

伊藤壽啓: 平成 20 年度 農林水産省委託プロジェクト「鳥インフルエンザ、BSE・  
口蹄疫等の効率的なリスク低減技術の開発」研究推進会議外部専門家

伊藤壽啓: 平成 20 年度 農林水産省動物用インフルエンザワクチン株変更法検討  
委員会委員

山口剛士: 平成 20 年度 鳥取県畜産技術業績発表会審査員

村瀬敏之: 平成 19 年度～現在 鳥取県農林水産技術協議会メンバー

村瀬敏之：平成 19 年度～現在 鶏病研究会専門委員

村瀬敏之：平成 20 年度 鳥取県公衆衛生協会理事

大槻公一：平成 3 年度～現在 鳥取県公衆衛生協会理事

大槻公一：平成 3 年度～現在 日本獣医学会 評議員，編集委員長

大槻公一：平成 4 年度～現在 鳥取県食鳥肉衛生協会理事

大槻公一：平成 5 年度～現在 世界鶏病学会（World Veterinary Poultry Association）International Advisory Board, 日本支部長

大槻公一：平成 9 年度～現在 鶏病研究会 理事

大槻公一：平成 16 年度～現在 鳥取県衛生環境研究所研究評価者

大槻公一：平成 16 年度～現在 京都府高病原性鳥インフルエンザ対策専門家会議委員

大槻公一：平成 17 年度～現在 農林水産省・先端技術を活用した農林水産研究高度化事業研究課題評価分科会評価委員

大槻公一：平成 18 年度～現在 京都府京都市新型インフルエンザ対策専門家会議委員

大槻公一：平成 18 年度～現在 京都府広域防疫対策センターに係る専門家チーム委員

小野悦郎：平成 17 年度～現在 日本獣医学会評議員

鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター：平成 20 年度 環境省野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る検査

---

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター年報 第2号  
(2008年版)

発 行 日 平成21年4月1日

編 集 ・ 発 行 国立大学法人鳥取大学農学部附属  
鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター  
〒680-8553  
鳥取市湖山町南4丁目101番地  
(代表者) センター長 伊藤 壽啓  
Tel. & Fax. 0857-31-5437

印 刷 中央印刷株式会社  
〒689-1121  
鳥取市南栄町34番地  
Tel. 0857-53-2221 Fax. 0857-53-2201

---